



NZSJ は 1959 年 11 月から数えて、今年は創立 60 年目を迎えております。  
日本ニュージーランド協会ニュースレター  
NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN

# W A I H E K E

2020 年 11 月号

HP: <http://nzsj.tokyo>

\*\*\*\*\*

## 会長よりごあいさつ

日本ニュージーランド協会  
会員の皆さま

ご無沙汰いたしております。

会員の皆さまには如何お過ごしでいらっしゃいますでしょうか？

本年度は新型コロナウイルス拡大のため、2月頃から生活の自粛を強いられる状況で、不要不急以外の外出禁止と行動範囲が閉ざされております。

時期を見て、活動の計画、特に7月末の恒例のワインパーティーの計画も考慮したかったのですが、残念ながら中止せざるを得ない結論になりました。

現状から、理事全員の賛同を得まして、今年の日本ニュージーランド協会の活動も中止ということで、会員の皆さまにご了承頂きたく存じます。

来年度の活動もどのように開始することが可能かどうか、まだ未決定ではありますが、皆様には順次ニュースレター、WEBでご連絡させていただきます。

皆様への今年の活動の最終報告としましてニュースレター（WAIHEKE）を送付します。自粛期間にもニュージーランドとはメールによる連絡ができておりましたので、この機会に活動の一環として、現地在住のお二人を紹介させて頂きたいと存じます。

当初は私共で、このWAIHEKEの紙面にてお二人を紹介させていただくつもりでしたが、やはりそれぞれご自身の筆にてご紹介いただくべきではないかと思直し、下記の如くお二人に執筆いただきました。

どちらも日本との親善を高めるために、ニュージーランドをより深く理解する案内役を担っていただけそうな方々ですので、ぜひご一読ください。

新型コロナウイルスへの対応は諸外国で異なりますが、皆様には体調を整えられて、日々お過ごしくださいませ。

来年、皆様と笑顔でお目にかかれることを楽しみに致しております。

日本ニュージーランド協会  
会長 山崎 弘子  
理事一同

## 1. ヴィクトリア大学講師：高橋進之介氏(自己紹介)

日本ニュージーランド協会会員の皆さま、初めまして。私は現在、ウェリントンにありますヴィクトリア大学にて講師を務めております高橋進之介と申します。この度、このような機会を賜り大変感謝すると同時に、長年日本とニュージーランドの民間交流にご尽力されている先輩方を前にし恐縮しております。私は2018年12月に家族と共にウェリントンへ到着し、こちらで日本語、日本史、日本—アジア関係、日—豪・NZ 関係史などを講じております。もともとは神奈川県横浜市出身ですが、ウェリントンに来る前は、オーストラリア・キャンベラにて7年過ごし、その後、熊本大学にて1年、神戸大学で1年半ほど過ごしました。こちらへ来てもうすぐ2年が経とうとしており、当初は右も左も分からない状態でしたが、今では子ども達も地元の学校に慣れ、私達夫婦もウェリントンをホームと感じられるようになりました。

現在、私が進めているプロジェクトは、日本とニュージーランドの民間交流の歴史です。19世紀から20世紀前半は、世界の多くが「帝国」や「植民地」により構成され、一般的には「暗い時代」という印象を持たれがちです。しかし、この時代は現在私達が「グローバリゼーション」と呼ぶ時代の基礎を築いた時代でもありました。この中で、「人びとの交流史」は、最も重要なテーマの一つです。私が現在進めている研究は、日本と当時まだ英国領における自治州（ドミニオン）であったニュージーランドの交流史を知識（人）の交流という観点から考察するものです。これを通じ、太平洋を挟んだ南北両端に位置する、気候も景観も似ているこの二つの島国から見えてくる世界史の姿を明らかにすると同時に、現在の日本—ニュージーランド間での交流がいかに形成されたか、ということ考察します。日本人初の留学生の一人である川瀬勇博士の足跡は、まさにこのテーマを考える上でとても多くのことを教えてくれます。そしてその理由は、川瀬博士が長年に渡り学界のみならず広く日本社会においてニュージーランドに関する著作を発表され、また一市民として日本とニュージーランドの民間交流にご尽力される中で数多くの史資料を残されたことによります。そしてこの豊富な史資料は、この度、日本ニュージーランド協会(関西)元会長呉橋真人様のご厚意によりご献本頂いた『ニュージーランドに魅せられて』に代表されますように、川瀬博士と共に、東京、関西、大分で日本ニュージーランド協会の運営に携わって来られた会員の皆様の長年に渡るご活動によるものであると考えます。この研究が今後、日本とニュージーランドという「遠くて近い国」の関係をより一層活発にするための一助となることを願っております。



皆さまにおかれましては、今後ともどうぞ引き続き、このプロジェクトを見守って頂けましたら幸いです。また、もし他にご協力頂けることがございましたら、いつでもお気軽に下記メールアドレスまたは電話番号までご連絡ください。

2020年10月10日

ヴィクトリア大学

ウェリントン言語文化学部

講師 高橋進之介

[shin.takahashi@vuw.ac.nz](mailto:shin.takahashi@vuw.ac.nz)

+64- (0) -21-0850-0502

## 2. オークランドへの留学生：粕谷海人氏(自己紹介)

Kia Ora! 僕の名前は粕谷海人と申します。僕は現在高校三年生で、オークランドの高校に留学しています。今回「会報 WAIHEKE」に記載して頂けるということで改めて簡単な自己紹介をさせていただきたいと思います。

僕は、日本の中学校を卒業後の2018年2月よりオークランドにある Botany Downs Secondary College という公立高校に通っています。私の学校は Year9~Year13 までが在学し、僕は Year11 から3年間在学しています。NZ の高校やホームステイでは、日本では経験できないような様々な体験を日々送りながら生活しております。今年は、NZ 留学最後の年の予定でしたが、NZ の大学に進学することにいたしました。当初は新型コロナウイルスの影響によって変更を余儀なくされたと考えておりましたが、実際は NZ にまだまだ残りたい気持ちが強く、今回の選択に至ったのだと思います!

僕が初めて日本ニュージーランド協会の皆様とお会いしたのは、2018年に行われたクリスマス会でのことでした。僕は最年少でありましたが、周りの方々に優しく迎え入れていただけたことを覚えています。また、その際に NZ 高校滞在レポートを掲載させていただける機会を頂けたことを心より感謝しております。NZ 高校滞在レポートでは、ほぼ毎月様々な NZ や高校での出来事をもとに、リアルな高校生からのレポートとして紹介し記載しております。また、2019年のクリスマス会に参加した際にはクリスマスパーティーレポートを書かせていただきました! 今後とも、NZ のリアルな情報を発信し続けていけたらいいなと考えております。

僕は現在 NZ に約2年半滞在しておりますが、留学当初は初めてのことがいっぱい毎日戸惑う日々でした。例えば、生活様式や人々の考え方が大きく違うため、それらに対応するまでの気持ちの切り替え方がとても難しく感じました。現在は日本と NZ との違いにもすっかり慣れて、順風満帆な日々を送っております。しかしながら、今の状況に至るまでには周りの方々からの様々なサポートやアドバイスがあったからであると思っております。僕は、これらの経験を決して無駄にしないためにも NZ 高校滞在レポートや様々な機会などを通して、これからもより多くの人々に僕の経験や NZ での出来事を紹介、共有できたらいいなと考えております。

今後も様々な経験や体験を皆様と共有できるよう、より一層邁進してまいりたいと考えております。これからも、様々な場面で活躍できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いたします! Ka kite anō !



オークランドより

2020年10月10日

粕谷海人

## 川瀬勇 追想・遺稿集『ニュージーランドに魅せられて』電子化のお知らせ

日本ニュージーランド協会は、川瀬勇博士により 1959 年 11 月に創立されましたが、1999 年 8 月 91 歳の博士がオークランド滞在中に逝去されたことを機に、翌 2000 年 12 月に日本ニュージーランド協会（関西）より川瀬勇追想・遺稿集「ニュージーランドに魅せられて」が出版されました。そしてこのたび、この書籍をより多くの方々に読んで頂く事を目指して、その全文を電子化するプロジェクトがスタートしました。以下に、そのプロジェクト発足のいきさつを綴らせていただきましたので、ご一読下さい。

新型コロナウイルス騒ぎで自粛ムードが続く中で、2020 年 6 月 16 日に、日本ニュージーランド協会ホームページに掲載された当協会の公式メールアドレス宛に、ニュージーランドのヴィクトリア大学講師 高橋進之介先生より一通のメール（下記）が届きました。

日本ニュージーランド協会様 御中

はじめまして。私はニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントン言語文化学部にて講師を務めております高橋進之介と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

この度、現在、私が進める日本・ニュージーランド間での民間交流の歴史について伺いたく、貴会にご連絡差し上げました。特に、日本ニュージーランド協会設立に関わられた方々の研究をしております。具体的には、川瀬勇氏、黒川英二諸氏などについてです。

本日、貴会に伺いたい点として、以下のようなことがあります。日本ニュージーランド協会設立に関する文書、記録等について、何か出版物がございますでしょうか。管見の限り、貴会設立に関して、本などでまとめたかたちとして出版されたものが見つけられずしております。もし何かお持ちでしたら書誌情報、更には購入可能でしたら購入方法についてご教示願えますでしょうか。（以下省略）

そこで、私の知る限りにおいてベストと思われる書籍として、川瀬勇 追想・遺稿集『ニュージーランドに魅せられて』を高橋先生へ紹介すると同時に、日本ニュージーランド協会（関西）元会長の呉橋真人さまへ本書籍購入の可能性を打診したところ、なんと高橋先生宛に 1 冊、さらに私宛にも 1 冊を、贈呈という形にて直ちに送って下さいました。

呉橋真人さまへの打診の際に、『もし許されるのであれば、次の世代の方々にも広く共有していただくことを目的に、本書籍を電子化してホームページ上にて一般公開したいのですが・・・』と申し出たところ、その話を聞きつけられた川瀬勇博士の長女藤村琇子さまも含めて大賛成との返事をいただくと共に、上述の通り私宛にも本書籍を 1 冊お送りいただいた次第です。

DEAR NEW ZEALAND  
WITH LOVE  
T.I.KAWASE

川瀬勇  
追想・遺稿集

ニュージーランドに  
魅せられて



川瀬勇追想・遺稿集出版委員会 編  
日本ニュージーランド協会（関西）

ニュージーランドに魅せられて

川瀬勇追想・遺稿集出版委員会 編

呉橋真人さまが本著書への投稿者の一人でおられたこと止まらず、発刊に向けて編集・校正などに最も注力された方であったことも知らずに申し出た電子化のアイデアでしたが、思いもよらぬ早さにて具体的な実行計画として練り上げられました。そして本年8月始めには、本書籍出版元の日本ニュージーランド協会(関西)石井久行会長と、当日本ニュージーランド協会山崎弘子会長との間での合意の下で、呉橋真人さまによる全76件の記事投稿者の方々に電子化への合意をいただく作業、ならびに片山による全270ページの電子化作業が同時にスタートしました。

現在、全文の電子化(文字化)および再構成・編集の作業をほぼ完了したほか、最終的な校正作業と、残された数名の記事投稿者の方々からの合意確認を残すばかりとなっており、なんとか年内には東京、関西の両日本ニュージーランド協会ホームページ上においての同時公開が実現しそうなところまで来ております。

ニュージーランドと母国日本を心より愛しておられた川瀬勇博士の思いが綴られた遺稿集13件と、60名を超えるの方々による博士への追想集など63件を、約150点上る写真や新聞切り抜きなどと共に綴り上げた、電子化版『ニュージーランドに魅せられて』の公開に際しては、あらためて皆さまへご紹介いたしますので、いましばらくお待ち下さい。

2020年10月10日

日本ニュージーランド協会 理事 片山愛一

## 季節のご挨拶 (2019年)

一年でいちばん日の長さが長くなるこの時期、夕方、台所に立つとちょうど右手のガラス窓から夕陽が差し込んできます。一年でこの時期だけのことです。毎年のこととは言え、地球の一年の流れを実感するときでもあります。こここのところお隣の国、オーストラリアの山林火災のため、上空に煙が流れてくるというので、心配そうに空を眺めている人がかなりいるようです。火災の起こっているあたりと、このNZとでは、直線距離では東京と台北ほど離れています。何と南米のチリにも影響があるとか。



そんなためなのか、朝晩、寒さを感じることもあり、ストーブを焚いています。真夏にストーブとは。そんなこともあってかハエが心なしか、例年より少ない気がします。

11月から12月にかけてアメリカを旅していて、この季節のご挨拶も遅くなってしまいました。日々の暮らしぶりを纏めました。文中にあるHはヒトシ、Jはジリアンのことです。今年もお読みいただければ幸いです。

## ガーデニング

これまで同様、無農薬有機栽培を続けています。これまでと大きく変えたことがあります。それは全体に肥料不足気味だったので、肥料分を増やすことにしたのです。市販の化学肥料を買ってきたわけではありません。わが家にある資源の活用を図りました。一つ目は、自生するコンフリー（ムラサキ科植物、和名ヒレハリソウ）を使って、液肥を作り、これを使うこと。もう一つは、時々、わが家のパドックへやってくる馬のふんを乾燥して細かく砕き、そのまま土中に投入する方法です。

嬉しいことにJの友人で隣町に住む日本人の女性から、ミョウガと里芋の苗を頂きました。ミョウガは残念ながら枯らしてしまいましたが、里芋は元気に育っています。少し水気の多いところに植えました。植えた初めのころ、何者か（多分、鳥）に球根を掘り起こされたりしましたが、今は順調です。

ちょうど野菜の種まきや植え付けの時期にアメリカへ出かけていたため、いま、畑には今すぐ食べられる野菜が少ないです。どうも真夏に日本に帰ることも、野菜栽培にはあまり向いていません。せつかくの収穫期にいないことになるからです。

その点、果樹はちょうどタイミングがうまく合います。こちらに帰ってくる9月下旬以降、洋ナシ、フィジョア、リンゴ、キウイ、オレンジ、レモン、グアバと順々に収穫期を迎えます。言うまでもなく、果樹は一度、苗を植えたら後は収穫を待つだけです。どうもわが家では、このずぼらなスタイルが向いているようです。アスパラガスしかり、長芋しかりです。

一日のうちの午後は、雨が降らなかつたら、だいたい繫ぎに着替えて、外に出ます。1時から5時まで外に出ています。ずうっとガーデニング作業に時間を使うかといえど、そうでもありません。薪づくり、機械の修理や手入れ、ペンキ塗り、家の周りの掃除、大工仕事、草堀り（根の深い牧草対策）、垣根の手入れや剪定などなどたくさんの仕事が毎日、待っています。特に強風で木が倒れたりすると、それを取り除く作業が最優先となります。万歩計を見ると、毎日5千から8千歩になります。なかなか1万歩にはなりません。

## 大麻 (hemp、アサ科)

2020年のこの国の課題の一つに、「大麻栽培を合法にするかどうか」という国民投票があります。大麻の栽培は日本では合法ではありませんが、世界各地では合法とされている国、州、地域があります。

この国では、国民投票は特別なことではなく、割合、頻繁に行われます。国レベルでは、数年前に国旗のデザインを変更するかどうかの投票が行われ、変更するという政府の提案は否決されました。地方レベルでは、隣町で行われ、水道にフッ素を引き続き入れるかどうか問われ、地方自治体が提案した引き続き入れるが支持されました。大麻が合法的に栽培できるようになれば、興味があります。栽培してみようと思います。

## 裏の畑

裏の畑と家の間にあったピンオークの木を切ってもらいました。裏の畑の日当たりがよくなりました。アスパラガスを移植し、カボチャも植えています。家から近いので、何かと重宝する畑になりそうです。

## ウメ

果樹は一般的に2本以上ないと実を結びません。これまで1本しかないのに、時々、数個成っていました。ニュージーランド在住の男性と話していたら、ウメの苗を扱っているところがあると教えてくれました。今秋、取り寄せて植えるつもりです。たくさんのウメが成ることを夢見ています。

## キウイ

わが家のキウイ、旧駐車場の屋根の上で育っています。そのため、屋根の上に木枠を置いて、キウイの実が屋根に触れないようにしなければなりません。今シーズンになり、木枠を作りペンキを塗って10個ほど仕上げました。今年のキウイ鈴なりで、大豊作の感じがしています。

## ブドウ

昨シーズンは、手を全くかけないブドウが成って、手をかけたフェンスのブドウは全く成りませんでした。そこで今シーズンは全く手をかけないことにしました。気候のせいかな、ブドウの成りがとてもいい。ブドウも大豊作の予感がしています。

## リンゴ

昨シーズン、フジに蜜が入りました。蜜入りリンゴは昼夜の温度差がないとできません。それができたのです。大感激でした。

## ハチミツ

わが家の一郭にミツバチの巣箱が置いてあります。これはハチミツ業者との契約で、私たちが、巣箱を置かせる代わりに、そのお礼としてハチミツやお金を貰っています。身近なところにミツバチがいるだけに、ハチミツについても関心があります。

「ミツバチが泣いている」(集英社刊)という本を読みました。衝撃的な内容でした。ハチミツといえば【ミツバチが植物の花から集めてきたものを濃縮して巣に貯め込んだもの】ですが、日本では人工的な甘味料を混ぜたものを加糖ハチミツと称したり、天然ハチミツを脱色・脱香して、ビタミンやミネラルなどの栄養成分を除去したハチミツが精製ハチミツとして、流通しているというのです。酷いものです。

幸い、ニュージーランドのハチミツは本来のミツバチが集めたものだけですから、安心して食べられます。

## 新らたな薪置き場

これまでの薪置き場はガレージの横のちょっとした小<sup>ひし</sup>庇の下に木枠を作り、その中に薪を詰め込んでいました。しかし、大きめの木が倒れたりすると、そこもすぐにいっぱいになってしまいます。

そこで閃いたのが、立木の間を利用することでした。これなら、わざわざ木枠を作らなくても済みます。早速、地面に大きめの角材を置き、薪を積み始めました。バランスがうまく取れないためか、ある程度の高さまで積むと壊れてしまいます。それでも、1mほどまでならうまく行きます。立木の枝葉が雨をそこそこ、防いでくれますから、次の冬にちゃんとした薪になるかどうか観察しているところです。

(次回に続きます)

アオ テア ロア(長く白い雲のたなびく国) ニュージーランドより  
ジリアン・ヨーク  
森下 均



NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN (日本ニュージーランド協会)

2020年度理事 (会長以外は50音順)

会長：山崎 弘子      理事：麻生 敏子、生沼 玲子、神谷 尚武、片山 愛一、  
佐藤 松雄、島田 勝弘    Jillian Isabelle Yorke、真島 由香、  
庄司 桂一郎(副会長)、丸山 有紀子 (会計)、水野 伸夫(副会長)、  
監事：梅谷 要          顧問：黛 雅男